

——— 生活項目間の分析 ———

松阪女短大 ○渡辺澄子 川本栄子 上島雅子

目的 前報までに我々は高齢者の生活構造を各領域別に検討してきた。本報では、高齢者の生活構造全体がどのような要因で構成され、また相互に係わり合っているのかということ把握するために項目間の構造分析を行った。

方法 調査項目と調査方法は前報と同様である。対象者の属性および7生活領域から74項目を設定したが、複数回答項目については1カテゴリを1項目としたため計86項目とした。各項目に対する回答の類似性から、Rモードクラスター分析により全項目間の構造連関をみた。

結果 次にあげる7つの解釈可能な生活要因パターンを抽出した。①満足・不満足を中心とした生活意識群 ②健康状態を表わす群 ③社会性を表わす群 ④健康を害した時の経済面や家族のことを不安に思う群 ⑤年齢・家族型・経済状態を表わす項目群 ⑥知的活動をともない収入・学歴・職業等の一般成人と同様な生活側面を表わし得る項目群 ⑦趣味やグループ活動を表わす項目群 次いでそれぞれのパターン間の関連をみると、①、②、③には強い結合がみられ、健康状態と社会に対する貢献度や関心度、および満足・不満足感に密接に関連し合っていることがわかった。又⑤、③、②間にもやや結合がみられた。さらに⑥と⑦の間にはかなり強い関連がみられ収入・学歴・職業・読書をするかしないかといった項目は他の多くの趣味やグループ活動の実施と関連し合っていた。しかしそれらは①～⑤の生活要因パターンとは殆んど関連し合っていないという高齢者独自の生活構造もつかむことができた。